

新潟県女性センター情報 No.66

2008. 3. 24発行

共催募集

新潟県女性財団では、平成 20 年度も市町村と共催の地域セミナーのほかに、住民グループとの直接共催による地域セミナーを実施します。「地域を良くしたい」「こんなセミナーをやってみたい」など心にあたためている企画はありませんか？グループの第1歩を女性財団がお手伝いします。企画書の作成、講師選びなどセミナーの企画運営全般をサポートします。

4月27日(月)までに、所定の共催希望書に必要事項を記入し、ご提出ください。共催希望書を受付後、直接会ってお話をお聞きし、選考の上決定します。詳細は、ちらしやホームページでもご確認いただけます。たくさんのご応募お待ちしております。

地域セミナー開催報告

平成 19 年度に市町村や住民グループと共催した地域セミナーの一覧です。詳細については、財団事務局にお問い合わせください。

市町村	回	開催日	テーマ等	講師等
長岡市	1	9月5日	ワーク・ライフ・バランスを考える講演会&シンポジウム	上手康弘(株式会社カミテ代表取締役社長)他
糸魚川市	1	10月25日	男女共同参画リーダー養成事業 ～家庭や社会との関わりの中で今までの「あたりまえ」を見直しませんか～	金井芳子(上越市男女共同参画推進センター長)
	2	11月1日		
	3	11月15日		
	4	11月22日		
	5	11月29日		
燕市	1	11月15日	リフレッシュのためのおしゃべりカフェ ～はっと!気づいたその日から～	石川伊織(県立新潟女子短期大学准教授)
	2	11月22日		与口幸子(新潟日報社情報文化部次長)
	3	12月6日		与口幸子(新潟日報社情報文化部次長)
上越市	1	12月1日	スキルアップセミナー 「明日の暮らしに女性の声を」	大島誠(くびき野NPOサポートセンター理事長)
	2	12月8日		
魚沼市	1	12月8日	講演会「息子3人、アナウンサー夫婦奮闘物語」	
柏崎市	1	12月15日	復興のための女性チャレンジセミナー ～不利を有利に変えるコツ～	大島照美子(新潟県女性財団理事長)
	2	1月19日		丸山結香(Max・Zen performance consultants 代表取締役)
	3	2月16日		川端美智子(ラビヤルザクアリア代表取締役)

グループ名	回	開催日	テーマ等	講師等
姥ヶ山自治会女性部(新潟市)	1	10月13日	自分らしく輝くための健康体操教室	伊藤千賀(chikaプロモーション代表取締役)
刈羽村女性ネットワークの会(刈羽村)	1	1月20日	震災に負けず野菜を食べて元気を出そう	
Happy Balance(新潟市)	1	1月28日	わたしの気持ちを届けるために ～はじめまして、アサーティブ～	石附幸子(アサーティブ・トレーナー)
	2	2月4日		
	3	2月18日		
子ども支援ネットワーク・ライツ(新潟市)	1	2月16日	心とからだをリフレッシュ ～自分を再発見～	小柳信子(子育てカウンセラー)
	2	2月23日		永嶋節子(ハーブランドシーズンオーナー)
	3	3月9日		武義和(小国folkホイスコーレ代表)
北東アジアの女性史を学ぶ会(新潟市)	1	3月2日	大パーティ!おばあさんから受け継ぐもの	尹千石(高麗物産社長) 山内悦子(新潟県原爆被害者の会)

講座レポート1

女性財団が柏崎市と共催し、12月から3回に渡り開催した地域セミナー「復興のための女性チャレンジセミナー～不利を有利に変えるコツ～」についての報告です。

7月16日海の日祝日、午前10時13分、マグニチュード6.8の地震に突如襲われました。被災家屋が28,000棟に及んだことは典型的な地方都市を襲った生活直撃型地震の証でした。ピーク時は避難所82箇所に11,400人が、9月の仮設住宅の開設時には、39ヶ所、1,007戸に2,420人が入居しました。

対策本部の業務一辺倒から、本来の業務に半分ほど向き直ったのが9月に入ってから。混乱の中で少し落ち着きを見せ始めたとはいえ、多くの被災者は生活再建なんてまだまだという焦燥感が感じられる時期でした。しかし、そんな時期でもいろんな分野で暮らしやビジネスの再生を目指し、立ち上がろうとする市民の主体的な取り組みが生まれていることに気づきました。今、何かしなければならぬことがあるのではと迷っていたそんな時、目に飛び込んできたのが「不利を有利に変えるコツ」という呼びかけのキャッチコピー。中越大地震で壊滅的な打撃を受けた山古志村で「やまこし道楽村」を立ち上げ、村民の生業を再生した丸山結香さんが講師の起業家養成セミナー（女性財団の地域セミナー委託事業）の呼びかけでした。

まだ残暑の厳しい9月15日、県央リサーチコアで開催されたそのセミナーに参加しました。「今がチャンス」「形あるもの（インフラ）の着手は早く、いつかは必ず元に戻る。それに比べて、まちの活性化や暮らしの再生は、早く手をつけなければならないが、ハードに比べると後回しにされがちである。」という丸山さんの言葉が私を後押ししました。それぞれの立場で何とかしなければならぬと取り組んでいる方、考えている方を対象にした能力開発・スキルアップのお手伝いができないかと考えました。女性財団に相談したところ的確なアドバイスをいただいた上、財団共催の地域セミナーとして共催して下さることになり、心強く、ありがたかったです。12月から2月まで月1回の3回シリーズ、土曜日の午後1時から5時まで、ワークショップにたっぷり時間を取ることにしました。更に、財団からは小熊専門員はじめ企画運営委員をファシリテーターとして投入していただくことになりました。

11月、募集を開始しました。市民は再建に必死で、それどころではなかったでしょうが10人位は集まって欲しい、意欲のある方から参加して欲しいと思っていました。個人的にくどき落とすことはやめ、団体を回ってPRしたところ、何とか目標をクリアでき、さらにかしわざき男女共同参画プラン推進市民会議の会員が加わってくれて25人となりました。

1回目の大島理事長は、非常時において社会的性差にとらわれない行動ができるために、日ごろからあらゆる場面の判断基準を男だから、女だからではなく一人ひとりが個性や能力を認め合い、社会的性差に敏感な視点を持つことが大切なこと。そのことは、復興のための地域づくりにも心がけなければならない大切なこと。と熱くそしてパワフルに語られ、参加者は元気をもらいました。

2回目の丸山由香さんは、震災のバネ（注目度）はすぐに伸びきる。飛べる時に飛んで！声を出し行動するには今がチャンス！柏崎のみなさんはこれだけ大変なおもいをしたんだから、こんなに良くなりましたと言えるようになって欲しいと激励。ワークショップでは、もう一步踏み込む、突き抜ける発想を、そこで歩みを止めないでと熱くアドバイス。

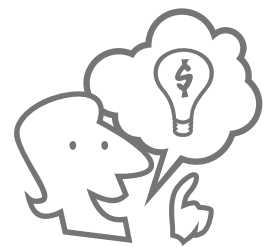
3回目、女性財団の事業コーディネーターでもある川端さんのワークショップは圧巻。

参加者のパワー全開という感じ。部屋の回りいっばいに1ヵ月後、6ヵ月後、1年後、2年後…私たちの望むまち、私たちの望む暮らしを各グループが描きました。そして、その想いは「郷土愛」・「もっと知ろう！好きになろう！そして伝えていこうよ！I Love kashiwazaki」のキャッチフレーズに結集されました。

今回の参加者は、それぞれに活動母体を持っていたり、目標に向かって行動している方がほとんどでした。目標に対して意欲が高まったことのほかに、参加者同士のネットワークが広がり、そして具体的な連携（助け合い）も生まれました。3回目終了後の茶話会では、迷いが吹っ切れたように参加者の目が輝いていたことが嬉しかったです。

現在もソフト面の復興への主体的な取り組みは地域コミュニティ、自治会、市民グループなどで心強く感じるほど活発に行われています。その中で目立つのは、どうも見ても女性の方が多く、そしてパワフルです。柏崎の復興は女性がキャスティングボードを握っている。女の逆襲だ。

【報告者／柏崎市男女共同参画室室長 三井田隆】



講座レポート2

北東アジアの女性史を学ぶ会と共催し、新潟ユニソンプラザで地域セミナー「大パーティ！おばあさんから受け継ぐもの」を開催しました。団体からの報告です。

3月2日、女性財団と共催で地域セミナーを開催しました。おばあさんから食文化や経験を教えていただき、日本人も在日朝鮮人・韓国人も、大人も子どもも、共におばあさんを囲んで交流する場として企画し、実現しました。

主役は、戦争や植民地支配の渦中に生きてきたお二人のおばあさん、尹千石さん（ユンチョンソク 新潟市東区在住、高麗物産社長）と山内悦子さん（同、新潟県原爆被爆者の会事務局長）。ともに80歳です。参加者は全員で24名でした。財団のおかげで保育設置も可能となったので、子育て中の人たちも参加し、5人の子どもがお世話になりました。

正午から会食開始。メインディッシュは、朝鮮の正月に食べられる「トックッ」（トッ＝餅 クッ＝汁）という雑煮。ほか、キムチ各種、ご飯、トングルレー茶を用意しました。尹千石さんにトックッの調理方法を伺うと、煮干の処理から始めて何日もかかり、相当に手間がかかっていることが判りました。尹さんは娘時代に生活が苦しくて雑煮を食べる機会が全くなかったそうですが、後年研究を重ねて、独自にたいへん美味しいお雑煮を作り出しました。参加者が「おいしー」と口々に食べていると、尹さんは、「いやー、時代が良くなった。昔は、朝鮮料理なんて、ニンニクくさいと言われたもんです。“朝鮮人はニンニク臭い”と言われて、ニンニクを食べていなくても、そう言われるんじゃないかと思って、怖くて怖くて、人に近寄ることができなかった」ということもお話されました。



尹さんのお話の後で、参加者が自己紹介をしました。当会「北東アジアの女性史を学ぶ会」（通称：あるじゃの会）の連続講座やイベントに参加経験のある方もいましたが、殆どは初めてお目にかかる人たちでした。新潟日報の記事を見て、わざわざ三条から足を運んでくださった方もいました。和室で円座になっていたため、皆さんの顔もよく見えました。

続いて山内さんの広島での被爆体験を伺いました。17歳のときに被爆し、原爆症の恐ろしさを知らされぬまま結婚し、母になったそうです。戦争の過酷な状況においては、人が人らしい心を持つてなくなるということをついにリアルに語っていただきました。また、被爆者認定問題にふれて、当時一時的に広島を来訪した者の認定条件として、国は「第三者の証言が必要」としているが、63年以上も経った今となっては、あまりにも非現実的な話だと憤慨されていました。また、原爆のパネル展を行った時、会場となった商業ビルから「飲食店への客足が落ちる」といったクレームを受けたこともあるそうです。山内さんは新潟市内の学校などで語り部として活動されていますが、被爆者の体験談を初めて聞く参加者も少なからずおり、尹さんも一緒になって、山内さんの被爆体験に固唾を呑んで傾聴していました。

被爆の体験から核廃絶を唱える山内さんと、核保有国が祖国である尹さんの同席について、どのような展開になるか、実は少し不安もありましたが、「案ずるより生むが易し」でした。二人のおばあさんは、「最終的には世界中から核を廃絶しなければならない。相手に言う前に自分のところから先に（武器を捨てるべき）」というところで、一致しました。すっかり意気投合して話は尽きず、参加者たちは圧倒されていました。

閉会後に参加者から寄せていただいた声を少しだけご紹介します。まずは20代の学生さんです。「美味しいお雑煮を食べて、貴重なお話が聞ける、すごく有意義なパーティでした。」。次は、小さいお子さんを育児中の方の感想です。「皆さんと和気あいあい団欒が出来て貴重な体験でした。二人のおばあさんはパワフルで強い！些細な事で悩む平和ボケな私達と対照的でした。朝鮮人へのイメージもかなり変わりました。どれだけマスコミにイメージが作られてしまっているか実感しました。戦争体験者同士の交流を見ていてなにがなんでも戦争反対！だと思いました。」

私は地域セミナーの参加も企画も今回が初めてでしたが、この企画当初から、女性財団の皆様が親身に相談にのってくださり、些細な疑問点でも尋ねれば直ぐに対応してくださり、「一緒に走ってくれている」という感覚で取り組ませていただきました。結果、意義深い企画が実現したと思います。本当にどうもありがとうございました。

【報告者／北東アジアの女性史を学ぶ会 吉沢佳世子】

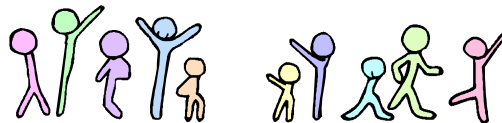
地域セミナー委託事業説明会

企画運営の経験が豊富な団体に地域セミナーの開催を委託します。平成 20 年度の委託団体を募集するにあたり、説明会を開催しますので、関心のある

方、申込み希望の団体は必ず参加してください。ご参加の方は 4 月 7 日までにご連絡ください。当財団のホームページでも詳細がご覧いただけます。

【日時】4 月 10 日（木）午後 1 時 30 分～

【会場】新潟県女性センター 女性団体交流室



女性財団講演会

女性財団では、平成 19 年度から財団の PR と賛助会員の増員等を目的に、年に数回、講演会を開催しています。テーマは毎回変わります。

今回は 4 月に、現在働いている・これから働こうと思っている女性を対象に仕事と家庭の両立～ワークライフバランス～を考えるセミナーを開催します。現在、両立に悩んでいる方、不安のある方、よりよい方法を求めている方、ぜひご参加ください。

◆「幸せを呼ぶ！私のキャリアプラン」

【日程】4 月 24 日（木）13:30～15:30

【参加費】500 円

【保育】要予約

【会場】新潟県女性センター 女性団体交流室 2（新潟ユニゾンプラザ 2 階）

【講師】弓ひろ（株式会社キャリアバランス代表取締役）

詳細はチラシか WEB でご確認ください。

県内の情報

新潟県男女平等推進相談室

性別による差別的な取扱いや男女の健康・生き方など、電話等により専任の相談員が相談をお受けします。内容によって、弁護士や医師による特別相談（「法律相談」「こころの相談」）も受けられます。秘密は厳守され、相談は無料です。（面接及び特別相談は予約が必要です。）

【電話】025-285-6605

【相談日時】火～金 12:00～19:00（受付 18:30 まで）

土・日 10:00～17:00（受付 16:30 まで）※年末年始、祝日はお休み

県外の情報

働く女性の全国ホットライン

毎月 5 と 10 のつく日が相談日です。解雇、雇い止め、不利益変更、退職勧奨、セクハラ、いじめ…職場のあらゆる悩み相談を受け付けます。

詳細については、下記へお問い合わせください。

【電話】0120-787-956（全国共通フリーダイヤル）

【相談日】毎月 5 日、10 日、15 日、20 日、25 日、30 日

※5 日はセクシュアルハラスメント集中相談日

【時間】18:00～21:00（土・日・祝のみ 14:00～17:00）

【お問い合わせ】働く女性の全国センター TEL 03-5304-7383 / FAX 03-5304-7379 <http://acw2.org>



編集・発行 / 財団法人 新潟県女性財団

〒950-0994 新潟市中央区上所 2-2-2 新潟ユニゾンプラザ 2 階 / 新潟県女性センター

TEL 025-285-6610 FAX 025-285-6630

E-mail balansu@cocoa.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www3.ocn.ne.jp/~balansu/>